

ホールアース自然学校が第24回日韓国際環境賞を受賞 ソウルで表彰式

東アジアの環境保全に貢献した人や団体に贈られる、第24回日韓国際環境賞（主催：毎日新聞社、朝鮮日報社 後援：外務省、環境省、在日韓国大使館 協賛：城西国際大学）に、日本側受賞者としてホールアース自然学校（代表：広瀬麗子 本拠地：静岡県富士宮市）が選ばれ、表彰式が10月25日に韓国ソウルのプレスセンターで開かれました。

表彰式では、主催者を代表して毎日新聞社丸山昌宏社長より広瀬麗子代表に、表彰状と賞金1万ドル、記念品が贈呈されました。

ホールアース自然学校は、1982年に広瀬夫妻が家畜動物と触れ合える場として「動物農場」という名前で活動を始め、1987年に現在のホールアース自然学校という名前に変更されました。本拠地である静岡県富士宮市にある富士山本校のほか、沖縄県名護市にある沖縄校「がじゅまる自然学校」や福島県郡山市にある福島校など、計7拠地で約40名のスタッフが活動しています。

設立以来36年間、家畜動物との暮らしをテーマにした「遊牧民キャンプ」や年間約2万6,000人の参加者を受け入れている「教育旅行プログラム」、里山の暮らしをテーマにした「里山のようちえん」など、自然を切り口とした体験プログラムを実施してきました。最近では、静岡県環境学習指導員養成講座や教職員初任者研修、そごう・西武の中堅社員を対象にした社員研修など、人材育成プログラムも多数実施しています。また、労働金庫連合会の「ろうきん森の学校」、住友林業の「富士山まなびの森」、三井物産の「社有林の森林環境教育プログラム」など、企業や団体の環境活動支援も行っています。

里山再生にも関わり、2011年には農業生産法人を立ち上げ、耕作放棄地を借り約3haで無農薬・無化学肥料で農作物を育てています。また、今年は野生鳥獣を解体処理し食肉にする施設「富士山麓ジビエ」をオープンさせ、狩猟者が獲ったシカなどを商品化することで、野生鳥獣の個体数管理の一旦を担うことになりました。

授賞式で広瀬代表は「ホールアース自然学校の使命は世界の平和と調和の希求。何時の日か、私達の活動が必要でなくなることを願いながら、この賞をいただき、今後の活動に活かしたいと思います。」と語りました。

本件に関するお問い合わせ先
ホールアース自然学校 富士山本校
(担当：角田周一)
TEL 0544-66-0152
FAX 0544-76-0567